青森県埋蔵文化財調査報告書　第231集

平　野　遺　跡
今　須（4）遺　跡

―県営中山間整備事業に伴う試掘調査報告書―

１９９８年３月

青森県教育委員会

図1　遺跡位置図

第2節　調査方法

平野遺跡と今須（4）遺跡は、日本海に面した七里長浜後背地の標高約30ｍの台地上にあり、岩木山麓北側から日本海へと流れる鳴沢川右岸の河岸段丘上に位置している。両遺跡の北側には国道101号線が走り、南側には鳴沢川に面した小谷が発達している。

今回の試掘調査の原因となる開発事業は、平野遺跡と今須（4）遺跡とを東西に横切っている既存農道を拡幅する農道整備事業であり、調査対象区域は既存農道（おおむね幅員3.5m）とその両側の畑地（スイカ、メロン、長芋等の栽培が行われている）で、延長1,015m、幅員８ｍの帯状の区域である。また、今回の調査は既存農道の通行を確保しながら行う必要があった。このため、試掘トレンチは既存農道を挟んで設定することとし、２×４ｍを基本とした大きさのものを10～20ｍ間隔で設定した。トレンチの番号は平野遺跡の東端（国道101号線に近いほう）から今須（４）遺跡の方に向かって算用数字を付した。試掘トレンチでの調査は、分層発掘を基本として調査を行った。遺構・遺物が多数検出された場合は、本発掘調査に委ねるつもりであったが、結果として住居跡１軒のみの検出であったため完掘した。なお、住居跡の調査においても、通行を確保して行う必要があったため、農道を二分して片側ずつの調査を行った。

第3節　遺跡の層序（図2）

第Ⅰ層　黒褐色土 10YR2/3　表土。耕作土。

第Ⅱ層　黒 色 土 10YR2/3　粘性、湿性ともにあり、いくぶん腐植質である。全体に軟らかで、ローム粒、軽石等を多少含んでいる。

第Ⅲ層　暗褐色土 10YR3/3～黒褐色土 10YR2/3　全体に軟らかで、白頭山火山灰を含んでいる。

第Ⅳ層　黒褐色土 10YR3/2～暗褐色土 10YR3/3　粘性、湿性ともにあり、ややしまりに欠けている。漸移層であり、ａ・ｂの二つに分けられる。

Ⅳａ層は黒褐色を呈し、腐植質である。

Ⅴｂ層は下位のⅤ層（軽石層）が、ブロック状あるいは粒子状に含まれる。

第Ⅴ層　明褐色土 10YR6/8　いわゆる千曳浮石層に相当する層。緻密で堅固である。細粒軽石（細粒火山灰）質で、ところどころ径１～２cm大の軽石も含まれる。

第Ⅵ層　橙色ローム 7.5YR6/6　いわゆるハードローム層。粘土質で、最上部は乾くとクラックが発達する。

一般に、耕作によりⅣ層まで削平されているところや、長芋栽培のためのトレンチャーによってⅥ層まで、攪乱を受けているところも多数見られた。

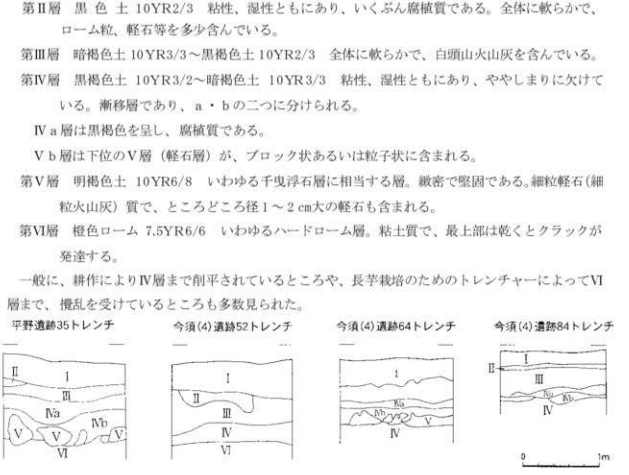


図２　遺跡位置図

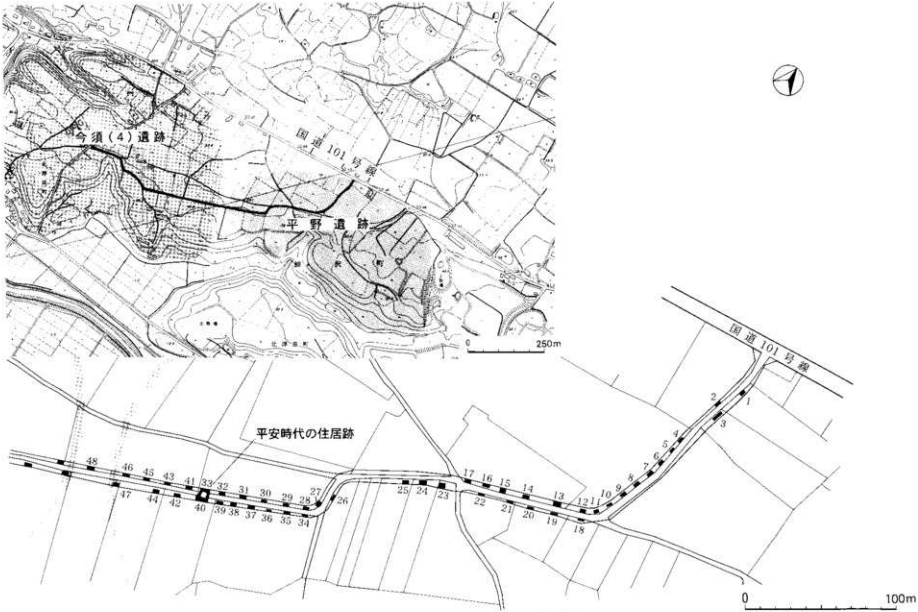


図3　平野遺跡トレンチ配置図

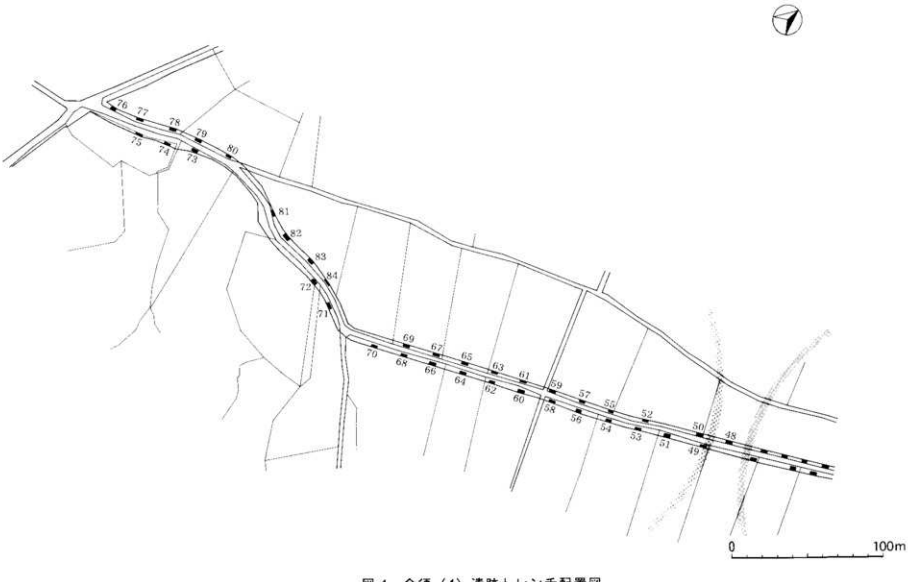


図４　今須（4）遺跡トレンチ配置図

第2章　平野遺跡

今回の調査では、33・44トレンチから竪穴住居跡1軒（第1号住居跡として調査）と、他のトレンチから少量の遺物が出土した。

1　検出遺構

第1号住居跡（図6）

[位置]　33・40トレンチにわたっている。

[平面形・規模]　平面形は長方形で、規模は東・西壁が3.8m前後、南・北壁が3.3～3.4m前後で、推定床面積は、11.8㎡である。主軸方位はN－110°－Wである。

[壁・床面]　壁高は表土から1m5cm、確認面から50cm前後である。床面は全般に平坦で堅緻である。

[カマド]　東壁辺の南寄りに構築されており、カマドの残存状況は良好である。カマド本体は板状の礫（砂岩）を横にして立て、白色ないしは黄褐色の粘土で補強して構築されている。カマドの内壁の幅は44cmほどである。燃焼部はよく焼けており、40×45cmの楕円形状の酸化面を形成している。燃焼部奥に支脚が設置され、この上部に土師器甕破片を重ねている。

煙道部は半地下式で、壁辺から128cm外方へ延びる。長芋の作付けの時に使用するトレンチャーで破壊されている部分が多い。

[壁溝]　壁溝は西・南壁に検出し、幅15～20cm、深さ5～10cmである。

[柱穴・ピット]　カマドの周辺から4個のピットを確認したが、柱穴と思われるものは検出出来なかった。

[堆積土]　自然堆積の状況を呈し、覆土中に白頭山火山灰を含んでいる。

[出土遺物]　カマド周辺から若干の遺物が出土した。

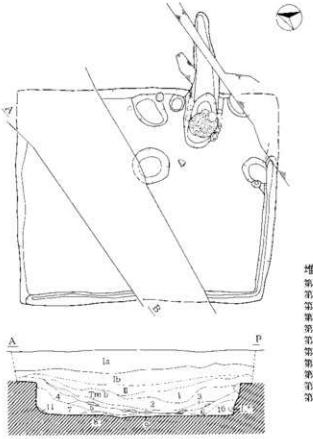
[時期]　白頭山火山灰の堆積状態から判断して、9世紀後半から10世紀初頭頃と思われる。

2　出土遺物（図5）

19トレンチそばの畑地から弥生時代後期と思われる土器片2点（1・2）、17トレンチから縄文時代の無文の土器片1点、36・44・45トレンチから土師器（甕）の小破片3点、46トレンチそばの畑地から土師器（甕）の破片5点と縄文時代の剥片1点を採集した。

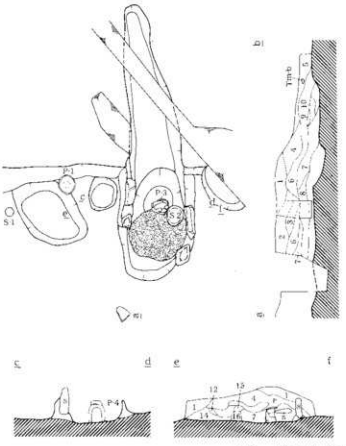
番号	出　土　地	器形	部位	文　様　・　調　整	備　考
1	19トレンチそばの畑地	深鉢	口縁部	付加条(二本巻き) RL＋0，3条の沈線文	弥生時代後半。胎土に細砂少量。器厚4mm。
2	同　上	鉢	胴　部	縄文(RL)	〃
3	46トレンチ	甕	底　部	ケズリ	平安時代。土師器。

図5　平野遺跡出土遺物



堆積土注記

第1層	黒 色 土	10YR1.7/1	ローム粒微量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第3層	黒褐色土	10YR2/3	白頭山火山灰混じり。ローム粒・微量。
第4層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物粒微量。ローム粒少量。
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物粒少量。
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒微量、炭化物粒少量。
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。
第8層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒微量。
第9層	褐 色 土	10YR4/4	LB混入。
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量。

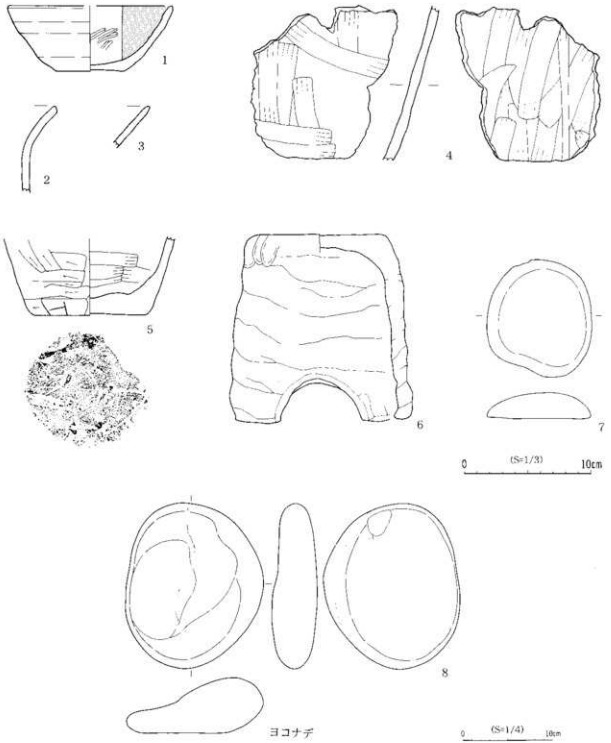


カマド堆積土注記

第1層	黒 色 土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土微量。
第2層	黒 色 土	10YR2/2	LB・ローム粒中量。焼土多量。
第3層	暗褐色土	5YR3/6	(天井部?)
第4層	黒褐色土	10YR2/3	LB・ローム粒中量。
第5層	黒褐色土	10YR2/2	白頭山火山灰混入。
第6層	黒 色 土	10YR2/2	ローム粒多量。
第7層	暗赤色土	5YR3/6	
第8層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土混入。
第9層	暗褐色土	10YR3/3	
第10層	褐 色 土	10YR4/6	天井部。
第11層	黒褐色土	10YR2/3	焼土微量。
第12層	褐 色 土	10YR4/6	天井部。
第13層	黒褐色土	10YR2/2	白頭山火山灰混入。ローム粒少量。
第14層	暗褐色土	10YR3/4	焼土微量。
第15層	褐 色 土	10YR4/4	天井部。
第16層	黄褐色土	10YR5/6	粘土質。袖。

0 1m

図6　第1号住居跡



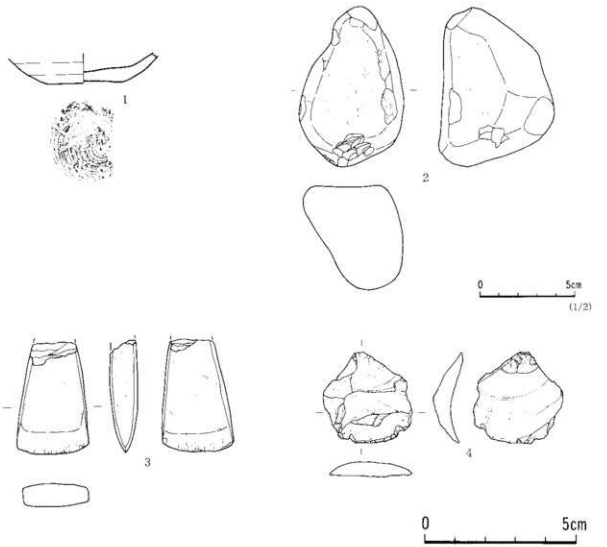
番号	出土地	器形	部位	調整	備考
1	1H床面	土師器坏	完形	外面ロクロ、内面ヘラミガキ・黒色処理	P－1。
2	1Hピット2	土師器甕	口縁部	ヨコナデ	
3	1Hピット3	土師器坏	口縁部	ロクロ	
4	1Hカマド	土師器甕	胴部	内外面ヘラナデ	P－3。
5	1Hカマド	土師器甕	底部	外面ケズリ、内面ヘラナデ、底部木葉痕	P－4。
6	1Hカマド	支脚	完形		P－4。

番号	出土地	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石質	備考
7	1H床面	不明	9.1	8.3	2.1	192.2	真岩	S－1。全体に滑らか。
8	1Hカマド	不明	18.4 1	5.1	6.1	2,000	安山岩	S－2。全体に滑らか。被熱。

図7　第1号住居跡出土遺物

第３章　今須(4)遺跡

今回の調査では、遺構は検出されなかったので、出土遺物について記載する。54トレンチから小型の磨製石斧１点、55トレンチから黒曜石のＲ－フレイク１点、64トレンチから平安時代の須恵器の甕の破片１点が出土し、調査区西端の74．75トレンチ南側の畑地から平安時代の土師器の甕の破片２点、砥石１点、縄文時代の剥片１点を採集した。



番号	出土地	器形	部位	調整	備考
1	75トレンチそばの畑地	土師器、坏	底部	ロクロ、回転糸切り	

番号	出土地	器種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石質	備考
2	75トレンチそばの畑地	砥石	84	55	53	247.9	凝灰岩	
3	55トレンチ	R－フレイク	30	29	7	4.9	黒曜石	未端に微細剥離。
4	54トレンチ	小型磨製石斧	(36)	24	9	15.0	粘板岩	基部破損

図8　今須（4）遺跡出土遺物

平野遺跡作業風景

今須（4）遺跡作業風景

今須（4）遺跡基本層序

写真1　作業風景、基本層序

第1号住居跡層序

第1号住居跡完掘（東側）

第1号住居跡かまど

（図7－1）

（図7－5）

（図7－6）

写真2　平野遺跡第1号住居跡と出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ひらの・いますいせき
書　　名	平 野・今 須（4）遺 跡
副　書　名	県営中山間整備事業に係る試掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	青森県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第２３１集
著 者 氏 名	畠 山　　昇
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒038-0042　青森県青森市大字新城字天田内152 15　TEL 0177-88-5701
発 行 年 月 日	西暦１９９８年３月３１日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
平野遺跡 ひらのいせき	青森県西津軽郡 鰺ヶ沢町 大字北浮田町 字平野91-7～15	321	15039	40′ 47′ 10″	140′ 16′ 0″	19960916 ～ 19961025	581㎡	県営中山間整備事業に係る試掘調査
今須(4)遺跡 いますいせき	青森県西津軽郡 鰺ヶ沢町 大字北浮田町 字今須100、外	321	15038	40′ 47′ 10″	140′ 15′ 40″		192㎡	

所収遺跡	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
平 野 遺 跡	集落跡	弥生時代 平安時代	住居跡１軒	縄文時代の土器・石器 弥生土器、土師器	
今須(4)遺跡	——	平安時代	——	縄文時代の磨製石斧、土師器、支脚	

青森県埋蔵文化財調査報告書第231集

平 野 遺 跡

今須（4）遺跡

—県営中山間整備事業に係る試掘調査報告—

発行年月日　1998年3月31日
発　　行　青森県教育委員会
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15
ＴＥＬ0177-88-5701
印 刷 所　㈱三栄企画印刷